ふれあいつながり かわら版

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120

「育ち」と「学び」をつなぐ なめらかな移行

実りの多い秋。学校園におきましても一年間で最も行事や学びが多い2学期を迎えています。各学校の一年生の様子はどうでしょうか。小学校入学から半年が過ぎ、学校でのルールや生活スタイルが身に付いてきた頃かと思われますが、2学期以降、「小ープロブレム」が次第に深刻になっていくとも言われています。この課題解決には、保幼小連携、幼児期と児童期へのなめらかな移行が深く関係してきます。

「遊び」中心から「学習」中心の生活へ

遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なることもあります。

幼児期の子供たちは、自分の興味をもった活動を選び、「遊び込む」中で様々な力を身に付けています。そのため、先生方は、クラスの実態に合った保育環境を整え、ふさわしい援助を工夫します。小学校においても、子供たちの実態に合わせ、徐々に集中する時間を増やし、ゆっくりと学習を広げていく等の工夫が子供の安心感にもつながっていきます。次の写真を見て、幼児期の子供たちはどのような力を身に付けていると思われますか。（集中力、創造力、想像力、非認知能力等）

また、小学校では、この姿はどう結びつくでしょうか。幼児期の遊びの中の学びをしっかり捉え、それを小学校での「学び込み」につなげていくことが求められています。

「架け橋期」について

「架け橋期」とは、義務教育開始前後の5歳児から小学校一年生の2年間をさし、生涯にわたる学びや生活の基盤を作る大切な時期と言われています。子供の成長を切れ目なく支える観点から、保幼小の円滑な接続を一層意識し、教育の内容や方法を工夫してください。

余部小学校合同職員研修の様子

夏季休業中に、余部小学校と徳栄寺こども園が、保幼小合同職員研修会を実施しました。校種間の違いを超え、お互いに子供たちに対する思いを意見交換する場面では、「幼児期の遊びが、小学校の教科でどうつながっていくのか」、「小学校の生活科と幼児期の遊びとの関わり」等、具体的に様子を浮かべ、対話を深めていました。このように、子供に関わる先生方が普段から「連携、協働」することは、それぞれの時期にふさわしい学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した学びや生活の基盤を育むことになります。幼児期に関わる先生方と、小学校の先生方とが、子供の成長を共有することは、子供の発達の流れを相互に理解することになり、「架け橋期」の大きな支えになるでしょう。

幼児教育で培われた 資質・能力の生かし方の理解

幼稚園教育の基本に基づいて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示されています。日々の生活で、幼児期に関わる先生方は、この姿を大切にされています。また、この姿は幼児期の教育においてのみ重視されるものではなく、小学校以降の学びの基盤となっていきます。小学校教育でもこの姿を踏まえた指導を行い、幼児期の教育と連携を図ることが求められています。子供のよりよい育ちを実現するため、今後とも実り豊かな保幼小連携をお願いいたします。

- ○健康な心と体　○自立心　○協同性
- ○道徳性・規範意識の芽生え　○社会生活との関わり
- ○思考力の芽生え　○自然との関わり・生命尊重
- ○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ○言葉による伝え合い　○豊かな感性と表現